

平成 20 年度北海道遺産構想推進協議会事業計画

1. 基本的な考え方：

■平成 20 年度は、平成 15 年度から北海道遺産構想を支えてきていただいた応援団の仕組みが実質的に終了する年度となります。今年度には当協議会を、任意の民間団体から NPO 法人へと組織変えし、新しい運営方式を導入します。それに伴い、現在の賛助会員組織を今年度で解散し、新たな NPO の会員組織を構築・会員募集することとなります。法人格の取得による事業の受託についても現在、実験的に内閣府へ 1 件の企画提出を行っています。今後は国の事業において、観光庁の設立に伴って地域資源の活用を促進した観光振興の事業が数多く展開されることが予想され、北海道遺産協議会として積極的に応募していく必要があります。

■北海道遺産の「物語を伝える」活動をはじめ、それぞれの事業展開については、上記の通り応援団のスキームがなくなるため、来年度以降は活動資金の大きな減額が予想されます。そのため、今年度のうちに、特にホームページの充実については一定の整備を行い、来年度以降の情報発信の基盤を整備することとします。

■平成 19 年度に募集を開始した「ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト」は、新たなジャンルも設定し、現在も募集中です。今年度中に、本プロジェクトについてもホームページの拡充など一定の基盤整備を行うとともに、一層の応募を呼びかけ、北海道の地域資源のデータベースとして認知されるものへとステップアップする予定です。

■北海道が企業や各種機関と提携する中で、北海道遺産がテーマとして取り上げられることも多く、その機会を有効に活用した P R や商品の販売に努めます。昨年度は道内のセイコーマート全店舗（約 930 店）でのガイドブックと DVD の販売、サッポロビールの全国各工場等関連施設でのパネル展、札幌大学での北海道遺産パンフレットの多言語化バージョンの制作（未完成）などが行われ、今年度もすでにセブンイレブンの道内全店舗（約 830 店）でのポスターの掲出とリーフレットの配置、またレシート下部での北海道遺産の P R、そして主要な店舗（400 店程度）でのガイドブックと DVD の販売が予定されています。

■上記のような展開とは別に、個別の事業ごとに企業とのタイアップも模索していきます。第一弾は札幌と江別市内の北海道遺産 12 ヶ所を回る「北海道遺産スタンプラリー」で、必要な事業費の 7 割程度を「札幌苗穂地区の工場・記念館群」として北海道遺産に選定されている企業から支援いただき、実施しています。

■すでに実施している事業についても「大好き HOKKAIDO！ 観光プラン大賞」と「北海道遺産地域懇談会」を継続し、実施します。

2. 各事業について

(1) 北海道遺産の物語を伝える

企業とタイアップして札幌市・江別市の12の北海道遺産を巡る「北海道遺産スタンプラリー」を開催。また、一昨年度からシーニックバイウェイ支援センターと共催している「大好き HOKKAIDO! 観光プラン大賞」の第3回を実施し、過去2回分と合わせ、プランを活かした商品造成に向けた活動を本格的に始動する。

情報の発信についてはホームページを軸とした仕組みとし、内容の充実を図るとともに、よりタイムリーな提供を行う。特色のある取り組み等を実施している地域の数ヶ所をピックアップして現地での取材調査を実施し、特集的に地域の物語としてホームページで公開する。

前年度より継続し「北海道遺産DVD」と「北海道遺産ガイドブック」を販売。本年度は道内のセブンイレブンでの販売を実施する。

■普及啓発活動事業

「北海道遺産スタンプラリー」(4~10月)

北海道遺産に選定されている苗穂地区の企業（サッポロビール）からのご提案により札幌市内と江別市の12の北海道遺産の施設をめぐるスタンプラリーを開催。これにより市民が日ごろは観光施設して考えている札幌市内の北海道遺産に足を運ぶきっかけとしたい。応募のコースを4つ設定し、時間のない観光客も気軽に参加してもらえ内容とした。また、応募者には抽選で、今回参加している苗穂地区の企業（サッポロビール、雪印乳業、福山醸造から賞品提供）の製品をプレゼントする。

○350千円

*「北海道遺産スタンプラリー チャレンジBOOK」参照

「リーフレットのリニューアル」(6月)

現在のリーフレットを、市町村合併に伴う所在地の変更、販売商品の変更、協議会組織の変更等に伴い、改訂する。新リーフレットはまず北海道内のセブンイレブンの店舗（約830店）および食と情報の観光館（JR札幌駅構内）に設置、配布する。

○600千円

*「北海道遺産リーフレット」改訂版ラフ案参照

「ポスターの新規作成」(6月)

現在のポスターは2枚組であり、新規に1枚ものを作ることで必要に応じて使い分けられるようにする。まず北海道内のセブンイレブンの店舗で掲出する。

○400千円

*「北海道遺産ポスター」新規版ラフ案参照

「北海道遺産DVD」と「公式ガイドブック」の販売（通年）

夏から道内のセブンイレブンで販売予定。また全道主要書店、開拓の村記念館ミュージアムショップ、中央バス大通バスターミナル 2 階パネル展会場、事務局での販売を継続して行う。

○250 千円

「第 3 回 大好き HOKKAIDO！ 観光プラン大賞」（9 月）

平成 18 年度の第 1 回では 118 件、平成 19 年度の第 2 回では 93 件の応募をいただいた。第 2 回は応募件数が減少したが、応募プランのレベルが高く、入選作以外にも甲乙つけがたい内容の観光ルートが集積された。今年度も第 3 回を継続実施するとともに、本事業の共催団体であるシーニックバイウェイ支援センター、協賛団体である（社）北海道観光振興機構との連携によるプランの事業化・広報PRを推進する。

○300 千円

「ホームページでの情報発信と管理運営」（通年）

昨年度に改良したホームページの管理運営を行うとともに、事務局の現地調査による「北海道遺産地域の活動の物語」を伝えるページを増設する。メールニュースの発行、事務局ブログを継続するなど、ホームページ・メールなどを活用して、多様な情報をタイムリーに発信する。

○800 千円

「情報誌の発行」（3 月）

「ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト」について情報提供を行うため、次頁の（2）項における「保全活用推進事業（ムラの宝物推進事業）」に係る予算とする。

「イベントへの参加」（随時）

各種イベントへの出展など

○300 千円

「専用封筒（ロゴ入り）の制作」（10 月）

従来は市販封筒にプリンターでロゴ・住所を毎回印刷してきたが、事務局組織の変更に伴い新規に専用封筒を制作する。封筒には北海道遺産の分布図などを刷り込み、北海道遺産の情報が封筒からも得られるものとする。

○350 千円（角 2 および長 3）

■地域活動促進支援事業および地域とのタイアップ事業

「北海道遺産所在地域の取組みおよび観光客受入体制の情報整備」（6～7 月）

各地域での「北海道遺産を活用した取組みの状況」や「平成 20 年度の活動・イベントの予定」、「観光客の受け入れ体制（現地ガイドの状況等）」の情報収集を実施。結果をとりまとめ、情報収集結果は、ホームページで公開し、新たな地域間の連携機会や商品造成などに役立てる。

○150 千円

「地域活動の現地調査および発信」（8～11 月）

北海道遺産の活用方法や地域でのイベントなど、選定地域での活動や物語などで特徴的なものについて数ヶ所をピックアップしたうえで、事務局が取材を行い、ホームページにて情報を発信する。

○350 千円

「地域懇談会の開催」（10～11 月に 2 回程度）

役場の担当者や担い手の方々と地域における PR の重要性や今後の活動などを議論する。一昨年度は北見市、稚内市、昨年度は十勝、空知地域で開催した。本年度は札幌地域、道東地域の関係者にお集まりいただき開催を予定。

○350 千円

(2) 構想の趣旨を全道へ普及する

■保全活用推進事業（ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト）

北海道遺産構想の趣旨を全道に普及する取り組みとして数年来課題となっていた「ムラの遺産」を平成 19 年度に「ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト」として始動した。昨年度は「ムラの宝物」の募集を開始、公式ホームページを開設するとともに、実行委員会を開催し、方針や審査・登録について意見交換を実施した。

平成 20 年度は「ムラの宝物」の登録を実施し、ホームページで公開する。

また、「宝物」のカテゴリーに加えて特産品や地域の食の魅力を伝える「ムラの売りもの」「ムラのごはん」の 2 ジャンルを新設し公募を開始するとともに、ホームページのデータベースを拡充する。

新規 2 ジャンルとともに「宝物」と「活動事例報告」について、さらに公募をよびかける。実行委員会を継続的に開催し、「宝物」の審査、活用方策の検討を実施する。

年度末には「ムラの宝物」をテーマとして北海道遺産情報誌を発行する。

○1,400 千円

- ・ホームページの拡充 500 千円
- ・実行委員会会議費 350 千円
- ・郵送費 150 千円
- ・情報誌の発行 400 千円

ムラの宝物さがし P	↳	ムラの宝物:自然、歴史、文化、生活、産業、人など広い意味でのムラの自慢
	↳	ムラの売りもの:特産品などムラが自信を持ってお勧めする売りもの
	↳	ムラのごはん:売り出し中の料理や地域が育んできた食文化
	↳	ムラの宝物発掘活動:地域学や地域遺産の発掘、ユニークな地域再生プロジェクトなど

(新ジャンルについて)

ムラの売りもの	<ul style="list-style-type: none">・ムラが自信を持ってお勧めする産品・そこでしか入手できない産品、他にはないユニークな産品・他にもあるが絶対的な品質の高さを誇る産品 など
ムラのごはん	<ul style="list-style-type: none">・地域に根付いた、いわゆる B 級グルメや地域の歴史が育んだ食文化・同名の料理は他地域にもあるが調理法や味付けなどがユニークな料理・他ではなかなか食べられない料理 など

* データベースを公開する際には、ここで紹介する製品・商品(食品を含む)に関する欠陥や、それが原因で生じた損失・損害について、当協議会では一切の責任を負いかねること、また製品・商品(食品含む)に関する各種のお問合せやクレームは、その件に関するお問合せ先および販売者に直接ご連絡してほしい旨の免責事項を明記する予定です。このことについて、ご了解の上ご応募ください。

(3) 北海道遺産構想推進協議会の自立へ向けた展開

平成 19 年度の臨時総会において、北海道遺産構想推進協議会の自立に向けた第一歩として NPO 法人格取得に向けた準備を進めることが承認されたが、諸般の事情により申請が遅れていた。社員（10 名）の目途が立ったため、現理事・監事の社員就任の承諾がいただければ 6 月中～下旬に申請の予定となっている。平成 20 年度は NPO 法人の申請と以下の組織変更を推進する。

「協議会の NPO 化」

北海道遺産構想推進協議会の NPO 化へ向けた申請を行う。信用度の向上、事業受託を可能にするとともに、将来的に認定 NPO 法人の取得を目指すことで協賛企業の寄付行為の優遇を図るなどを目的とする。

○100 千円

「地域会員の創設と依頼」

北海道遺産の選定地域や関係団体を対象にした会員制度を新たに設け、加入を依頼する。地域会員は NPO 法人の正会員とする。

* 年会費：1 口 10 千円

「応援団企業への法人賛助会員加入のお願い」

現在、応援団としてご協賛いただいている企業・団体に対して、法人賛助会員として継続的なご支援をお願いする。

* 現在の協賛金額から減額してのお願い（5 分の 1～10 分の 1）

(課題)

「賛助会員組織の見直し」

現在、個人賛助会員の年会費は 1 口 500 円（高校生以上は 2 口から）となっている。当初は趣旨に賛同いただける方を広く募集することが狙いであったが、コストパフォーマンスとしては厳しい。組織変更を機に、平成 21 年度より賛助会員組織の見直しを図る。

[新たな北海道遺産賛助会員の概要案]

- ・ 個人賛助会員：年会費 3,000 円（1 口以上）※子どもの会費の設定
- ・ 法人賛助会員：年会費 10,000 円（1 口以上）
- ・ 会員特典：会員証の提示で賛助企業を中心に割引サービス
：会費口数により事務局から特典の提供を検討（グッズ・協議会主催イベント等の割引サービス・会員限定の情報提供など）